

仙台大学通信教育指導室メールマガジン 第31号

通信教育指導室から、こんにちは。

有田和正先生は、講演の中でいつも「ユーモア教育」の大切さを説き、「1時間に一度も笑いのない授業をした教師は、授業終了後、ただちに逮捕する!」という名言まで遺されました。その有田先生は「もともとネクラだった」とか……。今日は、ユーモアについての勉強です。



有田和正先生

ユーモア教育で子どもを変えよう

子どもの頃から文章を書くくせをつけ、書くことを苦しめないようにしたい。文章を書くことで、書く力をつけ、ユーモアのセンスを鍛えたいと考え、実践してきた。

書くくせをつけるには、1年生がいちばんよい。

入学のときから書かせていけば、「書くものだ」「書くのが当然」と思うようになる。そして、書くことを苦しなくなる。

このためにわたしがしたのは、

- ・「おたよりノート」を毎日書かせる
- ・「はてな?帳」を毎日書かせる

という作戦であった。

4月から9月までは、黒板に連絡したいことを書き、それを「おたよりノート」に視写させた。

これは、書く力、それも速書きの力がついた。「えんぴつの先から煙の出るスピードで書きなさい」と、時々はげました。

10月からは、わたしが口でいって書かせた。聴写へ切りかえである。聴写の力もつけなくてはならないからである。

これで、聞く力と速書きの力が、ぐんと

ついた。

同時に、ユーモアのセンスが練れてきた。

毎日の「おたよりノート」の文の中に、面白いことを入れるからである。例えば、次のように――。

やよい4日(水)

きのう、山崎くんが大けがをしたのでR。手をつかなくて、顔をついてしまったのでございます。それで顔が少しこわれたのでございます。



ころぶときは、かならず手をつくのでR。せっかくある手を、じょうずにつかいましょう。山崎くんは4はりぬったのでR。かわいそうでございます。

たか田くんは「学校休めていいな」と、バカなことをいっているのでR。

こんな文を毎日書かせているうちに、子どもの頭の中に、ユーモアのセンスがしだいに育ってくる。

すると、子どもはすぐに「はてな？帳」を書くときに応用する。ためしてみる。

だから、しだいに「はてな？帳」の文が面白くなってくる。

ユーモアのセンスは、全生活の中で鍛えていかないと、なかなか伸びない。

弥生4日 1年 山崎俊輝

べつにいそぐこともないのに、走り出したのでR。どうしてでしょう。

まもなく、体がバランスをくずしたので、さっそく あたまでおさえたのでございます。

そのとき、ぼくの手は、ほかのことでいそがしかったのでしょうか。それで、おでこが、ちょっとつぶれちゃったのでございます。

ころんだとき、血がポタポタ、はなのよこをながれて、びっくり、こわかったのでございます。

そのとき、どこかで見たことのあるおじさんがあらわれました。

「あっ！有田先生だ！」

見たとたん、ぼくのむねは、ほっとしました。あのときの先生の顔を見て、ぼくは、よくできた、びなんしな顔にはじめて気がつきました。

ほんとうにたすかりました。心からありがとうございます。

山崎君がけがをした直後、幸運にもわたしが通りかかった。とにかくすごい血だった。顔は、目だけしか見えないくらいだっ

た。

そういうときでも、ユーモアが出てくるのに驚いた。

弥生7日

1年 山崎俊輝

4日ぶりに学校へ行って、さっそくおみまいインタビューをうけました。みんなは、けがのことをしんぱいそうにききました。なんとやさしいみなさまでございましょうか。

ぼくも、家にかえって、すぐ山本さんと青木くんに、おみまいコールをしました。

山本さんは、ふうしんにかかったけど、元気そうな声であんしんしました。青木くんは、気分がわるくて、おなかがいたかったそうです。いつもよりちょっと元気がない声でした。

でも、ぼくの電話で、きっと元気になるでしょう。

ぼくも、みんなの電話でいたみなんてわすれました。今まで、となりの友だちが休んだときしか、電話をかけなかったですけど、こんどのけがで、みんなに電話をもらってほんとにうれしかったので、ぼくもかけるようになりました。

けがをして、べんきょうになりました。

お世話になった人に感謝することを学び、友だちのよさを学び、自分も早速おかえしをすることを学んだ。こういうことを学べたり、できたりすることが、本当のユーモアかもしれない。

有田先生の粘り強い取組によって、「おたよりノート」と「はてな？帳」は、子どもたちの様々な力を引き出す魔法のツールとして機能しました。まさに、継続は力なり、です。